

# 令和2年度「自己評価結果報告書」

学校法人 薄永学園  
八街すずらん幼稚園

当園ではこの度、令和2年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価を実施いたしました。教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自身や園全体を見つめ直すいい機会となりました。

また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この自己評価の結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

## I. 教育目標

子ども一人一人を尊重し、次のような教育目標に向かって子どもを育てることにより、「自分で考え、自分で行動できる子ども、生活力のある子ども」の育成を目指します。

- 1、げんきなつよい子ども
- 2、きまりを守れる子ども
- 3、のびのびとした創造性豊かな子ども

① 体験を通して意欲的な子どもを育てる。

家庭ではなかなかできないことを経験し、興味や好奇心を持てる積極的で意欲的な子どもを育てます。（動物とのかかわり、植物栽培、戸外での活発で伸び伸びとした遊びなど）

② 体操、英語、音楽、絵画、製作を楽しむ。

興味を持って自ら活動が楽しめるよう指導します。（体操講師による体育指導、ネイティブ英語講師による英語指導、歌の指導、楽器遊びやリトミック遊び、クレヨン、絵の具などのテーマ絵画や自由絵画、製作等）

## II. 今年度の重点目標

- 保育の質の向上
- 安全管理体制の充実
- 安全点検体制の充実
- 未就園児活動の充実

## III. 評価項目と取組み状況

評価項目	取組み状況
1 保育の質の向上	A 園内研修、園外研修に計画的に取り組み、保育に活かせる技術・知識を学び合う機会を設け、教職員の資質向上を目指す。教職員一人ひとりが自身の保育課題・ねらいを明確にしたうえで積極的に取り組み、その成果を教職員間で共有し、実際の保育に活かす。 園内研修では講師の方を招き、職員全体で保育者としての心得や保育の質の向上について研修を受け、よりよい幼稚園にするための意識を高めた。また、幼稚園教職員としての心構えや姿勢を学び、新たな気持ちで保育に取り組んだ。 園外研修は、コロナ禍のため参加を控えた。 日々の保育に関しては、教職員一人ひとりが自身の保育課題を明確にし、積極的に取り組んだ。
2 安全管理体制の充実	S 地震や火災、不審者侵入など、様々な場面を想定した避難訓練を実施することで緊急時対応手順の共通理解を深める。クラスごとの反省をふまえて、各クラスの課題を園全体の課題として捉え、園全体が安全に避難できるように手順・方法を浸透させる。また、警察や市役所などの外部講師を招いての講習を行い、一人ひとりが防犯の意識を高くもつ。 地震や火災、不審者侵入など、様々な場面を想定した避難訓練を定期的実施することで緊急時理解を深める取り組みを行った。 外部講師を招いての園児対象・職員対象の防犯講習はコロナ禍で講師の派遣をしてもらうことが出来なかった。
3 安全管理体制	S 徹底した感染防止対策を行い、園児・保護者が安心して子どもを預けられるようにする。 保護者の協力をあおぎ、送迎時のマスク着用、手指消毒など、協力してもらう。 園行事等、感染拡大の恐れがあるものは見直しをし、規模を縮小または、中止などの措置をおこなう。 保育室・通園バス・園舎全体の消毒を毎日行なった。また、園児・保護者が園内に入る場合や通園バスの送り迎えなども、徹底したマスク着用と手指消毒に協力してもらった。 園児と保護者には、毎朝検温してもらうことで園児の体調管理を徹底し、風邪症状がある場合は登園自粛をお願いした。 行事等においても徹底的に見直しをし、食べ物関連のものや宿泊を伴うものはすべて中止。その他の行事も、三密を避けた形で実施した。 保護者・園児等が罹患した場合など、保護者からの問い合わせに対して教職員が同じ基準で回答できるように簡単なマニュアルを作成した。

4	家庭との連携強化	園での子どもの様子を保護者へ積極的に伝え、家庭での様子や情報を収集し、相互理解を深め、幼稚園と家庭の連携を深めていく。	S	月2回のおたよりポストや迎え時間の際などに、園内での子どもの様子をできる限り伝える取り組みを行った。また、バス通園の子どもについてもメモを活用し、同様に園内の様子を伝える取り組みを行った。また、常に家庭での様子をつかがうことを心がけ相互理解を深め、家庭との連携を強化する取り組みを行った。
5	未就園児活動の充実	地域の未就園児の子ども達を対象とした子育て支援活動の充実を図る。地域から受け入れてもらえる幼稚園となるため、保護者や子どもの目線になった活動を研究し、多くの保護者や子どもから選んでもらえる園になれるような活動を計画的に行う。保護者のニーズを受け、子どもだけの未就園児教室も引き続き充実させる。感染症対策を講じたうえでのイベント開催を心がける。	A	イベントでは毎回新しいことを試み、未就園の子どもと積極的に関わることができた。在園児も未就園児に関わる機会を設け、積極的に挨拶ができるようになった。園児の見本となれるよう、職員も笑顔や挨拶を心がけた。コロナ禍により、未就園児活動は感染症対策を講じたうえで行った。

#### IV. 今後取り組むべき課題

1	保育の質の向上	教員一人ひとりが、自身の保育を見なおし、子ども一人ひとりの言葉に耳を傾けながら子どもたちが楽しめる保育や、子どもたちが興味を持って自主的に取り組める保育を考えて行う。  子どもたちの一人ひとりの成長を見ながら、個々人の課題を明確にし、更に成長するための手助けとなるように努める。
2	安全管理体制の充実	感染症対策を確立させ徹底することで、園児及び教職員の感染を予防し、安全な園生活を送る。 園児および保護者の毎朝の検温を徹底してもらい、さらに保育中の園児の健康観察を徹底し、感染症や疾病の感染防止につとめる。 園児一人ひとりが自分の身を守る意味を理解し自分で自分を守る気持ちを持ちながら生活する。
3		地震や火災、不審者侵入など、様々な場面を想定した避難訓練を実施することにより緊急時の対応手順の共通理解を深める。クラスごとの反省をふまえ、各クラスの課題を園全体の課題として捉え、園全体が安全に避難できるように手順・方法を浸透させる。
4	家庭との連携強化	園児一人一人の様子を家庭に伝え、また家庭での様子を情報収集して保育に役立てる。保護者の方に協力してもらいたいことは、ねらいや趣旨を説明し、すべては園児ファーストであることをきちんと伝えて、気持ちよく協力してもらおう。
5	未就園児活動及び未就園児教室の充実	未就園児だけの教室をさらに発展させ、未就園児教室に入室する子どもを増やす。また、未就園児が幼稚園行事に参加できる機会を増やししながら、幼稚園での4年保育児としての位置づけを目指す活動を行う。 イベント的な活動が制約されるなか、安全を確保したうえでの未就園児イベントの開催を行う。

